



縄文人は「ラメ」がお好き

1 郷土館の地下倉庫から「謎の土」を発見

郷土館考古担当の職員が地下倉庫の整理をしていたら、表館(1)遺跡(縄文時代早期約 7 千年前)の第108号大型住居内から出土した「土」が入った容器を見つけた。この住居は、郷土館の裏の縄文広場に復元展示している。容器内の土は、「^{まさ}真砂のような全体に白っぽい土」のように見える。よく見るとキラキラした鉱物を含んでいた。^{くろうんも}黒雲母である。変色して金色に光り輝いていた。



第108号竪穴復元住居



雲母を含んだ土

2 縄文時代の土器や土偶には、雲母を大量に含んだものがある

千葉県小見川町の阿玉台式土器^{おたまだい}には、亀裂を防ぐ混和材として雲母が大量に含まれており、仕上がりもキラキラと輝いている。長野県茅野市^{ちの}棚畑遺跡の「国宝 土偶 縄文のビーナス」は、雲母片が混ぜられ表面がラメのようにキラキラと光っている。

六ヶ所村の縄文人も、ひょっとするとラメ入りの土器がお好きだったのかな？



金色に輝く雲母



富ノ沢(2)遺跡 縄文中期の土器